植物調査会の活動

―鳥屋野潟植物調査会―

白崎　仁

新潟市では1985年度に続き、今年、鳥屋野潟の自然状況を追加調査するために、鳥屋野潟植物調査会（代表：尾崎富衛氏、構成員約10人）に調査を依頼しました。鳥屋野潟は全国の湖沼の環境基準ではワースト10の中に入る極めて水質汚染の進んだ所で、調査の目的は今後の環境保全に対する基礎資料を得ることです。

（鳥屋野潟生物調査会 1986.鳥屋野潟植生調査報告書　参照）

●4月4日　鳥屋野潟植物調査会活動開始

早春の潟周辺の陸上の地域を南北二手に別れて調査しました。神道寺でハマナスの小群落を発見、新記録でした。

●5月9日第2回鳥屋野潟植物調査会開催

好天に恵まれ調査は順調にはかどっております。まだ水面にはあまり植物はありませんが、陸上は華やかでした。エゾタンポポの群落があり、ヤナギトラノオが生き残っておりました。都市化の進んだ所にもまだまだ自然は残っていると強く感じました。

鳥屋野潟の南岸には、水田が広がっていますが、今年建設された産業振興センター、県立鳥屋野潟公園、高等学校があり、しだいに潟周辺は狭められてきており、農業廃棄物などの投棄が目立ちます。北岸周辺はホテルや住宅地として開発が進み、それに伴い生活排水の流入、ゴミの投棄などで実態はひどいものですが、先回の調査でも湖面にも貴重な植物が多数あり、陸上にもヨシの群落に稀産種が残っています。鳥や魚も汚水とはいえ豊富で、今後我々の調査の結果を基にしてよりいっそうの保護対策がとられることを期待しております。

（しらさき　ひとし・新潟薬科大学助手）

ハガキ通信

植木茂男

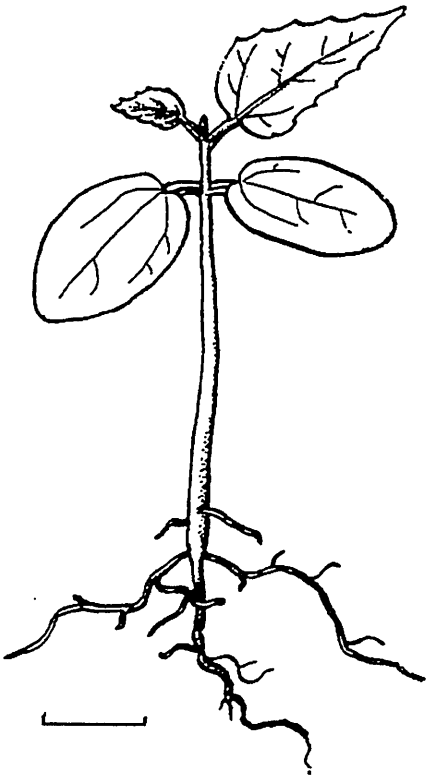
自然を愛することとは、どういうことなんだろうかと考えつづけてきました。

山を歩いて素晴らしい樹木に抱きついたり野辺のきれいな草花にほほずりをすることだけではない筈です。

自然を愛するということばを、日ごろ口にしたり読んだり聞いたりしていながら、初めのうちは自然を愛するというほんとうの意味を知ろうともしなかったのです。最近私は自然を愛するということとは、こういうことなのかなあと思うようになりました。それは・・・「今、残されている美しい自然をそのままの姿で後世にまで残すようみんなで努力すること・・・」だと。

去る二月十一日、長岡市中越婦人会館で開催された上信越ブナ原生林シンポジウムに出席してなお一層その感を深めました。

（うえき　しげお・新潟市坂井東2丁目23－21）



アカメガシワ（スケール1cm）
護摩堂山 1985.6.30.(坪谷富男)

新潟県自然保護関連団体「日本野鳥の会」新潟県支部　支部長　大島　基
（事務局：新潟市五十嵐三の町9753石部久方）